

回 覧

令和元年 7 月吉日

B 地区藤沢自治会

交通安全部

会員各位の皆さまへ

交通安全ご協力のお願い

日頃より、自治会の運営にご協力を頂きまして誠にありがとうございます。

今年 4 月、ある悲惨な交通事故が発生致しました。おそらく皆様のご記憶にまだ新しいものではないでしょうか。それは、東京・池袋で暴走した自動車にはねられた、31 歳母親の女性と 3 歳の幼い女の子が死亡した事故です。この事故で自動車を運転していたのは、87 歳の男性でした。報道によると、男性は最近になって足を悪くして、歩く時は杖を使用していたといいます。

内閣府の「平成 28 年交通安全白書」によると、75 歳以上のドライバーによる死亡事故は、75 歳未満のドライバーと比較して、免許人口 10 万人あたりの件数が 2 倍以上です。その要因はハンドルなどの不適切な操作による事故が最も多く、次いで前方不注意や安全不確認となっています。

以下、犠牲者家族のコメント全文です。

「まず最初に、事故現場の献花台に溢れるほどの花を手向けてくださった皆様、妻と娘に寄り添い心を痛めてくださっている皆様の温かい心に、本当に感謝しています」

「最愛の妻と娘を突然失い、ただただ涙することしかできず、絶望しています。娘がこの先どんどん成長し、大人になり、妻と私の元を離れ、妻と寿命尽きるまで一緒にいる。そう信じていましたが、たった一瞬で私たちの未来は奪われてしまいました。悔しくて悔しくて仕方がありません。この悔しさはどれだけ時間が経っても消えないでしょう」

また、妻と娘の写真を公開した経緯について

「妻と娘は本当に優しく、人を恨むような性格ではありませんでした。私も 2 人を尊重し、本来ならばそうしたいです。ですが、私の最愛の 2 人の命を奪ったという、その罪を償ってほしいです。この数日間、何度もこの先生きていく意味があるのかと自問自答しました。しかし同時に、今回の事故での妻と娘のような被害者と私のような悲しむ遺族を今後絶対

に出してはいけないとも思いました。そのために、私は妻と娘の画像を公開することを決断しました。妻はとても恥ずかしがり屋で、Facebookなどで顔を公開することもないような控えめな性格でした。そのため苦渋の決断でした。」

「この画像（妻と娘の顔写真）を見ていただき、必死に生きていた若い女性と、たった3年しか生きられなかった命があったということを実感的に感じていただきたいと思います。現実的に感じていただければ、運転に不安があることを自覚したうえでの運転や、飲酒運転、煽り運転、運転中の携帯電話の使用などの危険運転をしそうになった時に、亡くなった2人を思い出して思いとどまってくれるかもしれない。そうすれば、亡くならなくていい人が亡くならずに済むかもしれない、そう思ったのです。」

「それぞれのご家庭で、事情があることは重々承知しておりますが、少しでも運転に不安がある人は、車を運転しないという選択肢を考えてほしい。また、周囲の方も本人に働きかけてほしい。家族の中に運転に不安がある方がいるならば、いま一度家族内で考えてほしい。それが世の中に広がれば、交通事故による犠牲者を減らせるかもしれない。そうすれば、妻と娘も少しはうかばれるのではないかと思います。今回の事件をきっかけに様々な議論がなされ、少しでも交通事故による犠牲者がいなくなる未来になってほしいです。」

推定時速100km以上もの速さの自動車にはねられた母親は、血だらけになったその体で懸命に地面を這い娘のもとへ力を振り絞り、倒れて動かない我が子を抱きしめながら息絶えていったそうです。その悲しみは、世の中にあるすべての言葉をどんなに多く綴っても、はかり知れません。

ご高齢などの理由に関わらず、自動車を運転する全ての方々が、当日の体調・運転への不安感の有無など、ご家族やご自身でもう一度ご確認頂けたら幸いです。

B地区藤沢自治会では、これからも安全、安心を目指す環境作りに取り組んでいきます。

末筆ではありますが、日頃からの皆様によるご協力を重ねて御礼を申し上げます。